

医療事故予防の取り組みについて

医療事故の予防は、患者さんと医療者が協働することで達成することができます。それは患者さんが医療に参加することです。その具体的なことを米国保健省のAHRQ（医療の質研究庁）が『医療事故を予防する20の秘訣』として公表しています。これらを私たち医療者と患者さんとで実行しましょう。

『医療事故を予防する20の秘訣』

1. 事故を防ぐ最もよい方法は、あなた自身が診療チームの一員となることです。
2. あなたが服用しているものはすべて医師にきちんと伝えましょう。
店頭で売っている薬でも、ビタミンやハーブなどのサプリメントも全部含めて。
3. あなたのアレルギー歴と、薬の副作用歴も、きちんと伝えましょう。
4. 医師が処方を書いたとき、それがあなたにも読めるかどうか確認しましょう。
5. あなたの処方箋が出されたとき、そして処方薬が手渡されたとき、その薬の内容について、自分が理解できるまで必ず聞きましょう。
6. 薬局で薬を手渡されたとき、それがあなたの主治医が出したものかを確認しましょう。
7. もし薬のラベルに印刷されていることがわからなかったら、ためらわず聞きましょう。
8. 水薬をもらった場合は、薬剤師に一番良い測り方を聞きましょう。
9. 処方された薬の副作用の可能性については、紙に残してもらいましょう。
10. もし選べるのなら、あなたと同じ治療や手術が多く行われている病院を選びましょう。
11. 入院中は、あなたに直接手を触れるスタッフに、手を洗ったかどうか聞きましょう。
12. 退院間近になったら、医師に自宅での療養法について聞きましょう。
13. 手術を受けることになったら、手術で何がなされるのかについてきちんと確認しましょう。
14. もしもわからないことがあったら、大きな声で聞きましょう。
15. 入院したら、主治医や他の担当者が誰であるかを確認しましょう。
16. あなたに関わるすべてのスタッフが、あなたの病状を把握しているかを確認しましょう。
17. 重要な話を聞くときは、家族などの方にあなたの助けとなるよう同席してもらいましょう。
18. 「もう少し何とか」というのは、必ずしもいいことではありません。
19. 何か検査を受けた時には、必ずその結果を聞きましょう。
20. 医師や看護師への質問や、他の信頼できる情報源から、自分の病状について学びましょう。